



シテ・レトル

LETTRÉ

2024.9 Vol.90



リーダーズ・インタビュー

三菱地所株式会社 執行役常務

大野 郁夫 氏

グラングリーン大阪が一部先行開業

うめきたプロジェクト四半世紀の集大成へ



提供: グラングリーン大阪開発事業者

**研究活動委員会**

テーマフォーラム

圏域研究会

- ◆ 農業・農村とつながる圏域郊外調査【泉北レモンの街】
- ◆ 歴史的重層性のある郊外調査その2【近鉄編】

**分科会活動委員会**

WS 幹事会報告会(幹事会)

WS 副市長報告会

**総務委員会**

前副会長&新副会長・委員長メッセージ



## グラングリーン大阪が一部先行開業 うめきたプロジェクト四半世紀の集大成へ

2028年春の全体完成に向け、今年9月に一部先行開業したグラングリーン大阪。JR大阪駅近くに4万5000㎡の公園を含む新しい都市空間を提供し、世界をリードするイノベーション拠点を形成します。本プロジェクトの代表企業、三菱地所株式会社の大野郁夫執行役常務にプロジェクトの概要や目指す姿などを伺いました。

**大野 郁夫氏** 三菱地所株式会社 執行役常務

Mr. Ikuro Ono

生年月日 1962年7月11日  
1985年 3月 東京大学教育学部卒業  
1992年 5月 三菱地所株式会社入社  
2013年 4月 都市開発事業部長(兼)豊洲開発事業室長  
2015年 4月 執行役員 都市開発一部長

2016年 4月 執行役員 名古屋支店長  
2020年 4月 執行役員 新事業創造部、DX推進部担当  
2021年 4月 執行役常務  
2023年 4月 関西支店着任

## 大阪駅前にふさわしい 高度な集積拠点に

○**林**:最初に、大野常務のご経歴を伺いたしたいと思います。

○**大野**:大学卒業後7年間、海運会社で勤めた後、1992年に三菱地所に入社しました。入社後約25年間はオフィスビルを中心とした商業用不動産の開発に携わり、2016年からの4年間は名古屋支店に支店長として赴任。2020年に東京に戻り、新規事業やDX推進などそれまでとは全く異なる分野の事業も経験しました。2023年4月から関西支店に着任し、グラングリーン大阪をはじめとする開発プロジェクトを手掛けています。

○**服部**:グラングリーン大阪は今年9月6日に先行開業を迎えました。開発概要やコンセプトについてお聞かせください。

○**大野**:計画のコンセプトは、“Osaka MIDORI LIFE”の創造です。グラングリーン大阪は、大阪駅前に4万5000㎡の都市公園「うめきた公園」と、オフィス、ホテル、商業施設、イノベーション施設、分譲住宅を整備するプロジェクト。弊社をはじめ、大阪ガス都市開発、オリックス不動産、関電不動産開発、積水ハウス、竹中工務店、阪急電鉄、三菱地所レジデンス、うめきた開発特定目的会社\*1の9社による共同事業です。公園と民間施設を一体的にデザインし、開業後50年間は開発事業者が組成する(一社)「うめきたMMO(“MIDORI” Management Organization)」が指定管理者として管理・運営します。

北街区には新産業創出や産官学交流の拠点となるイノベーション施設やライフスタイルホテルを、南街区には最先端オフィスや高級ホテル、商業施設を、また南北両端に分譲住宅棟をそれぞれ整備。南北合わせた延べ床面積は50万㎡を超え、大阪駅前にふさわしい高度な集積拠点となります。

○**LANDSCAPE FIRST**

公園の中にまちをつくる。

○**PUBLIC FOCUS**

みんなで育てるパブリック性の高いまち。

○**DIVERSITY & OPPORTUNITIES**

多様な活動ができるまち。

○**NET POSITIVE**

サステナブルでウェルビーイングなまち。

○**GLOBAL APPEAL**

世界から人々を受け入れ、魅力を発信するまち。

これら五つのアプローチにより、都市公園を中心に市民や企業が新たな活動に挑戦でき、Quality of Life(QOL)の向上を感じられる創造的で活力あるライフモデルの発信を目指



しています。

○**服部**:先行開業以降、全体完成まではどのようなスケジュールでしょうか。

○**大野**:今年9月は都市公園の主要部分と北街区賃貸施設の先行開業となります。大阪・関西万博が開催される2025年春に南街区賃貸施設がオープンし、順次分譲住宅棟や周辺道路の整備を進め、街区全体が完成するのは2028年春を予定しています。

2002年の都市再生緊急整備地域指定から四半世紀を経て、「うめきた」のまちづくりは完成することになります。

## まちづくりのキーワードは サステナブルとウェルビーイング

○**林**:御社はグランフロント大阪の開発にも参画しておられました。グラングリーン大阪のまちづくりとの相違点や連携点、特にグランフロント大阪で得た知見によって実現できたことはどのような部分でしょうか。

○**大野**:グランフロント大阪の基本コンセプト「多様なアイデアやイノベーションを生み出すまち」「世界に開かれた最前線のまち」「訪れ

る皆さまと共につくる参加型のまち」はグラングリーン大阪でも共通する考え方。今後はうめきた全体としてさらなる強化をはかり、アジア・世界のゲートウェイ、国際的な情報・人材の集積・交流拠点を目指していきます。

一方でグランフロント大阪開業から10年がたち、社会の成熟化はさらに進みました。また、コロナ禍という未曾有の局面も経験した今、人と自然の環境に配慮したサステナブルかつウェルビーイングなまちづくりがこれまで以上に求められています。グラングリーン大阪では、ターミナル駅直結の都市公園としては世界最大規模となる「うめきた公園」を中心に、圧倒的なみどりの力をエリアの大きな魅力として活用したいと考えています。

みどりの力の一つとして「環境への貢献」が挙げられます。温室効果ガスの削減、空気の浄化、温熱環境の改善、生物多様性の促進、雨水流出の抑制という五つの指標でみどりの価値を可視化し、LEED-NDプラン認証\*2、SITES予備認証\*3とともにGOLD評価を取得することができました。

その他にも街区全体としてさまざまな環境負



\*1:うめきた開発特定目的会社…大林組が出資する特別目的会社  
\*2:LEED-NDプラン認証…エリアの環境性能評価を目的としたLEED認証システムで、ワークビリティ、職住近接、多様な用途、コンパクトシティ、自然資源保護などの評価  
\*3:SITES予備認証…生物多様性保全や水資源保全、省エネルギー、資源循環、ヒートアイランド現象緩和、健康増進、教育など多面的な要素の評価



提供: グラングリーン大阪開発事業者

荷低減技術を採用し、カーボンニュートラル実現に向けた取り組みを進めています。「うめきた公園」を魅力ある場所としてサステナブルに運営していく工夫として、公園での活動をともに推進する企業連携制度「MIDORIパートナー制度」\*4を創設しました。開発のコンセプトや理念に共感いただける企業・団体に公園のパートナーとして協賛をいただき、さまざまな社会課題の解決や来街者のQOL向上に資するウェルビーイングな活動や情報を発信していきます。

### 公園とまちがシームレスにつながる都市空間

○服部: 4万5000㎡の公園と建物の関係性はどのように考えておられますか。  
○大野: 一番の特徴は「うめきた公園」を計画の中心に据え、公園とまちがシームレスに

つながる都市空間のデザインです。先ほどお話ししたアプローチの一つ「LANDSCAPE FIRST:公園の中にまちをつくる」に基づいています。「うめきた公園」は、南北で異なる性格を持たせています。南公園は大阪駅に隣接し、1万人規模のイベントが開催可能な芝生広場や大屋根スペースを中心とした、アクティブな活動が行われる都市的な空間です。一方、北公園は自然豊かな憩いの場として、ボリュームのある緑や池、滝などのダイナミックな水景を配置しています。これら南北の公園を結ぶ回遊動線として、弧を描く形状の歩行者デッキ「ひらめきの道」を設けます。ゆったりと歩きながら四季折々の公園の風景を楽しみ、イノベーションの起点となるひらめきが誘発される場所と期待しています。  
○服部: グラングリーン大阪のみならず、うめ



\*4: MIDORIパートナー制度…MMOの活動の持続可能な展開、並びに「みどりイノベーションの融合拠点の形成」の実現に向け、本プロジェクトのサステナブルな価値観・計画や「共創」の理念に共感頂ける企業・団体様を対象とした協賛制度

きたエリア全体を含む回遊性の実現性についてはどのように考えておられますか。



○大野: 南北に直線的に伸び、界限性の高いストリートを軸に建物が整然と連なるグランフロント大阪に対し、グラングリーン大阪は敷地形状の特性や公園との関係性を踏まえ、正方形を基本とする建物をさまざまな角度で配置。多様なすき間を生み出すことで豊かな歩行者空間を創出しています。また、フロアの一部をずらして緑化することで立体的なみどりのネットワークを形成し、そこでのアクティビティが表出する計画です。歩いて楽しい、体験価値の高い空間を目指すとともに、まちのどこにも「裏」がない設計として、うめきた全体の回遊性を高めてくれると考えています。

### イノベーションの拠点「JAM BASE」を新設

○林: グラングリーン大阪は新産業創出や国際集客・交流、知的人材育成の拠点にもなるのお話でした。グランフロント大阪の「ナレッジキャピタル」との関係性や、うめきたエリア全体でのイノベーション機能の実現性に向けた展望をお聞かせください。  
○大野: 「ナレッジキャピタル」は、グランフロント大阪開業以来、産業創出、文化発信、国際交流、人材育成をミッションとして活動を展開し、10年間で約620の企業・団体に参加いただき累計4600万人が来場、1万回弱のイベントが開催されるなど、大阪の交流拠点としての実績を築いてきました。グラングリーン大阪ではこれらの活動と連携しつつ、学生や起業家、研究機関、スタートアップなど多様なプレーヤーが新たなアイデアを形にし、社会実装・事業化を目指すイノベーション活動の拠点「JAM BASE」を新たに設けます。音楽の即興演奏をJAMMINGというように、この施設から生まれる共創が即興音楽のように楽しく、エキサイティングなものになること

を願って命名したものです。吹き抜けを中心にさまざまな用途・機能を混在させ、出会いと交流を誘発する空間設計が特徴です。この施設は開発事業者が組成する(一社)「コ・クリエーションジェネレーター (CCG)」が管理運営し、大阪府や大阪市など官民が連携する(一社)「うめきた未来イノベーション機構 (U-FINO)」がイノベーションを支援。官民一体組織の強み、ターミナル駅直結という地の利、都市公園を抱える恵まれた環境を最大限に活用し、社会課題の解決や新産業創出に貢献します。

○林: JAM BASE設立によって、大阪・関西にはどのような効果が期待できるでしょうか。  
○大野: みどりとイノベーションの融合拠点というグラングリーン大阪のコンセプトとそのポテンシャルには経済界からの期待も高く、オフィスリーシングでは、クボタや塩野義製薬といった関西を代表する企業の本社移転をはじめ、本田技研工業のソフトウェア開発拠点の新設なども決まっています。こうした世界の最先端で活躍する企業の集積と並行して「うめきた公園」や「JAM BASE」で展開されるウェルビーイングかつイノベティブな活動との共創を重ねていくことで、関西経済にとって重要なイノベーションエコシステムのハブ機能を担っていくのではないかと考えています。

### まちづくりの一翼を担う誇りと気概をもちよう

○林: 長年、東京や名古屋で開発プロジェクトを手掛けてこられた大野常務にとって、大阪というまちはどのように映っていますか。



○大野: 今、大阪では各地で再開発が進んでいます。コロナ禍が明け、インバウンドの観光客でキタもミナも大盛況です。来年には万博が開催され、その後も統合型リゾート (IR) が控えています。現在のまちづくりが、今後20年、30年先の大阪を形作る重要な時期です。私も含め、この開発



に携わっている人の責任は重く、それだけやりがいのあるプロジェクトに携われていることを誇りに思います。当社はグランフロント、グラングリーンともに代表企業として関わらせていただき、関西の主要な企業と共にプロジェクトを推進することができました。お互いが持つノウハウ、知見を吸収し合いながらまちづくりを進めていくという意味では本当にいい経験になったと思います。こうした開発事業は完成してからが勝負。共同事業者の皆さんと共に、本当にいいまちづくりを進めたいと考えています。

○服部: 最後に、CITÉさろん活動へのご示唆やエールなどをいただけるでしょうか。  
○大野: CИTÉさろん活動の強みは、約30年にわたる歴史の積み重ねと、業種の枠を超えたネットワークだと思います。各社が持つ商材、経験、価値これらを組み合わせることで新しい価値を見だしていこうとするムーブメントこそイノベーションを生み出す源泉。例えば、うめきた公園の緑を活用して何ができるかといったテーマについて、プロジェクトチームで考えていただくようなことも面白いのではないのでしょうか。一方で、そうした活動が大阪だけのものになっていることは少しもったいないな、とも感じます。関西支店に着任してから、大阪や神戸、京都で仕事をさせていただく中で、それぞれのまちならではの魅力を感じています。奈良や滋賀、和歌山も含めた関西全体での魅力向上・発信にはまだまだ余地があるように見えます。「CИTÉさろん活動の拠点は大阪」という前提は踏まえた上で、関西全体で連携を取ってみる。そこで生まれるコミュニケーションの中から、大阪が担うべき役割も改めて明確になっ

てくるのではないのでしょうか。先ほども触れたように、今いろいろな形で進んでいるまちづくりがこれから20年、30年、50年先の大阪を決めていくものになります。この時代にCИTÉさろんに参加されている皆さんには、その一翼を担っていることへの誇りと気概を持って活動を続けていただければと思います。  
○服部: 弊社も「MIDORIパートナー制度」に参加する中で「連携」というキーワードを頻繁に聞き、実際に参加企業さんと個別に接触をとり始めています。大野常務がおっしゃるように、このタイミングで活動に参加させていただいていることをうれしく思います。  
○林: 今日のお話を伺い、これから完成に向けて歩を進めるグラングリーン大阪を違った視点で見るきっかけになりました。  
○服部・林: 本日はありがとうございました。



インタビュー | CИTÉさろん広報委員会委員 服部 一哲氏  
サントリコーポレートビジネス(株) 西日本支社 営業部 営業担当部長  
CИTÉさろん WSメンバー 林 彩加氏  
(株)サイマックス関西 営業企画部  
取材日 | 2024年7月31日(水) 9:30~11:00

# テーマフォーラム

24年4月に大阪市計画調整局長に就任された山田裕文様に「大阪のまちづくり」と題してご講演をいただきました。山田局長は前職の大阪都市計画局の技監在職時に「大阪のまちづくりランドデザイン」策定に携われました。そのご経験を踏まえて、大阪市内外について幅広い視線でお話を頂きました。

2024年5月29日(水) 16:30~17:40  
梅田サウスホール(大ホール)

- 開会挨拶 水方 秀也氏 (CITÉさろん 研究活動委員長)
- 講演 演題:「大阪のまちづくり」  
講師: 山田 裕文氏 (大阪市計画調整局長)
- 閉会挨拶 上田 徹氏 (CITÉさろん 副会長)

大阪都市計画局在籍の2年間、府市全域のまちづくりを担当しました。視野が広がった一方で、大阪市計画調整局の力を改めて感じています。22年12月に「大阪のまちづくりランドデザイン」を策定しました。基本目標は「未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり」です。また、大阪市計画調整局のまちづくり方針は、持続的な成長、都市格、都市基盤の整備、の3つです。これまでは南北軸が中心でしたが、今後は臨海部から大阪城周辺に至る東西軸を加えたまちづくりを進めていきたいと考えています。

### ■大阪市における主なまちづくり



### ■都心部の主な地域のまちづくり

- ①新大阪周辺地域は、北陸新幹線、リニア中央新幹線等を契機に、世界有数の広域交通ターミナルを目指します。新大阪駅エリアは駅前広場の再編と民間開発により、駅とまちが一体となった人中心のまちなかの形成を図ります。
- ②うめきた2期は、まちづくりの目標を「『みどり』と『イノベーション』の融合拠点」と定め、都市公園の両側に民間建物が整備されます。24年9月に北街区と公園の一部が先行開業、来春に南街区が開業します。周辺では大阪マルビル建替、芝田1丁目計画等が検討されており、これらをつなぐ歩行者ネットワークの充実を図ります。
- ③なんば駅周辺は、地元組織の提言から始まった歩行者向けの「なんば広場」が23年11月に先行オープンしました。地域の回遊性向上やミナミのエリア価値向上に資するイベントを実施予定です。
- ④大阪城公園周辺は、大手前や法円坂等、再開発の動きが活発化しています。京橋駅周辺では「コネクティブシティ京橋」を掲げて検

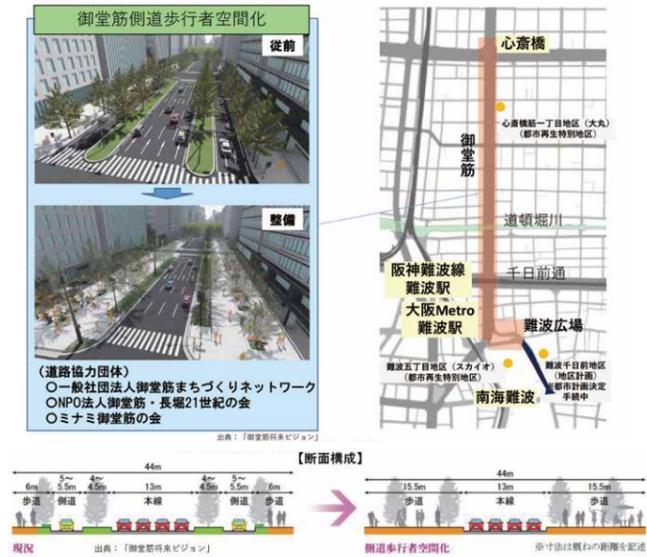


討を進めています。大阪城東部地区では、25年秋に開設予定の大阪公立大学を中心に、アリーナや大阪Metroの新駅等の開発を進めています。

- ⑤中之島地域では、なにわ筋線の中之島駅が31年に4丁目と5丁目の間に整備され、利便性が飛躍的に向上します。4丁目では再生医療の国際拠点「中之島クロス」が24年6月に開業します。5丁目では土地区画整理事業が進められており、国際的な開発を目指して24年3月に地区計画が決定しています。
- ⑥夢洲地区の第2期は、エンターテインメント機能を中心に万博の理念を継承したまちづくりを進めます。1次募集でマスタープランを複数選定した上で、提案内容を基に府市でマスタープランを策定します。2次募集ではそれを踏まえて、開発事業者を募集する予定です。
- ⑦弁天町駅周辺は、「ニシ」の玄関口として23年4月にまちづくりビジョンを策定しました。今後ベイエリアとの連携強化や地域交流拠点の形成強化等に取り組んでいきます。

### ■都市格を備えたまちづくり

#### ■御堂筋の歩行者空間化



御堂筋は、心斎橋から難波まで側道の歩行者空間化を図っています。また、土佐堀通から長堀通まで御堂筋デザインガイドラインの運用を10年続け、近年は街歩きを楽しめる大通りになりつつあります。市内11のエリマネ団体と大阪市により17年から大阪エリマネメント活性化会議を実施しています。23年には万博会場を設置して、機運を盛り上げる取組みを進めています。エリマネ団体の活動費を行政が地元から徴収する財源により賄う制度の運用にも積極的で、大阪版BID制度はグランフロント大阪で、地域再生エリマネメント負担金制度は大阪駅周辺地区で活用されています。市内の主要ターミナルで大阪市交通バリアフリー基本構想を策定、推進しています。18年の改正に伴い、幅広い方々の意見を基に拡充を図っています。

### ■都市基盤の整備

#### ■大阪圏の鉄道ネットワーク ~更なる鉄道ネットワークの充実~



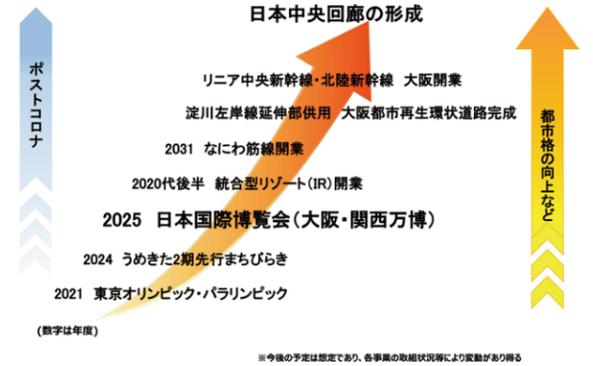
道路では、淀川左岸線の2期・延伸部が工事中です。第二京阪と接続することで、物流等の効率化に繋がります。また、建設期間中も万博のシャトルバスルートとして暫定利用します。鉄道では、阪急なにわ筋連絡線・新大阪連絡線や、大阪モノレールの延伸、夢洲アクセスに対応する新路線を検討しています。異なる交通手段を一括で検索・予約・決済できるMaaSの実現を目指し、関西の鉄道7社は「関西MaaS協議会」を組織、23年9月には「KANSAI MaaS」アプリをリリースしました。空飛ぶクルマについては、SkyDrive社の大阪港の中央突堤と万博会場との2地点間運航のために、中央突堤でのポート整備を推進しています。自動運転については、淀川左岸線2期の阪急バス・京阪バス、舞洲駐



講師 山田 裕文氏  
生年月日: 昭和41年10月23日  
役職: 大阪市計画調整局長  
学歴: 平成3年3月 京都大学工学部土木工学科

車場から万博会場、会場外周道路の大阪メトロのそれぞれがレベル4運行を目指しています。万博後も、大阪では様々なビッグイベントや大規模なインフラ整備が計画されています。これらを契機に、大阪の都市格の向上と更なる発展を目指して、皆さんと共に、頑張っ参りたいと考えております。

#### ■大阪の発展をめざして



### ■質疑・コメント

- 上田副会長: 大阪都市計画局が発足して2年以上経ちますが、以前の組織と比べて、どう変わりましたか?  
 山田局長: 府市一体で広域的に政策を考えるようになりました。府下自治体と交流する機会も多く、学び合っています。もう少し時間を掛ければ、融合して力が発揮されるでしょう。  
 田中会長: 山田局長は大阪の都市格をどう捉えていますか?  
 山田局長: 都市格は「憧れ」のようなものですが、それを何に求めるかは議論の余地があります。いずれにせよ、我々を含めた関わる人達が、意志を持って活動していくのが大事だと思います。  
 上田副会長: 計画調整局はかつて、大阪市の中を調整されていたが、今では大阪都市計画局を通じて、事業者や隣接市町村との調整まで積極的にされるようになったと思います。

(研究活動委員会:水方)



職歴	平成3年	4月1日	大阪市入庁
	平成22年	4月1日	港湾局臨海地域活性化室開発調整担当課長兼計画調整局開発調整部夢洲・咲洲地区調整担当課長
	平成23年	4月1日	計画調整局開発調整部夢洲・咲洲地区調整担当課長
	平成25年	4月1日	都市計画局開発調整部都市景観担当課長
	平成27年	4月1日	都市計画局開発調整部開発計画課長
	平成28年	4月1日	都市計画局計画部都市計画課長
	平成29年	7月1日	都市計画局開発調整部長
	令和2年	4月1日	都市計画局計画部長
	令和3年	11月1日	計画調整局計画部長
	令和4年	4月1日	大阪都市計画局計画推進室長
	令和5年	4月1日	大阪都市計画局技監
	令和6年	4月1日	計画調整局長

## 2022-2023年度ワークショップ幹事会報告会(幹事会)

日時:2024年4月17日(水) 15:30~17:30(定例幹事会后)  
会場:株式会社大林組 大阪本社4階講堂

2022年度からの2か年にわたるワークショップ活動の成果を、座長の先生方にも参加いただき、定例幹事会で報告しました。大林組様の講堂にてWSメンバーにも多数参加いただけただけのため、報告会終了後の交流会も含め、大盛況の開催となりました。

## 出席者

〈CITÉさろん〉田中会長ほか常任幹事、幹事、指定代理人  
〈WS座長〉吉田大阪公立大学准教授(WS1)、  
山口京都大学准教授(WS2)、  
鍋島大阪公立大学教授(WS3)

## 〈WS発表者〉

〔WS1〕中西(NTTコミュニケーションズ)、森(西日本旅客鉄道)、  
水谷(関西電力)、林(ザイマックス関西)、  
中西(阪急阪神不動産)、竹田(NTT都市開発)、五島(大林組)  
〔WS2〕中尾(西日本旅客鉄道)、前川(南海電気鉄道)、  
片山(NTT都市開発)、堀(日本設計)

〔WS3〕吉森(阪急阪神不動産)、杉垣(阪神電気鉄道)、山田(日立造船)  
〈報告概要〉

各座長から総括的なコメントを拝受し、メンバーがそれぞれ報告を行いました。

## 〔WS1〕テーマ「価値変化に伴う移動の本質を再考する」

「自動運転を活用した歩行者に優しいまちづくり~大阪らしさを活かして~」では、天神橋筋商店街、夢洲、御堂筋を対象に自動運転モビリティやウォーキングシューズレンタルを導入、公共交通の充実と自動車交通の抑制、歩行者空間の整備を実現し、エリアでの回遊性と滞留性を高め、大阪エリア全体での価値向上をはかることを提案、「本源的・派生的需要に対応した新しい“Osaka MAAS”の提案」では、モビリティハブの整備というハード整備と各事業者が連携したMAASアプリの提供というソフト整備を両輪に便利で楽しい移動を実現し、大阪の街のさらなる魅力UPを提案、「公共空間と交通 水辺と交通機関を活用した外国人観光客のさらなる誘客」では、外国人観光客をターゲットに、なにわ筋線上の十三、中之島、なんばを重点開発港として選定、水辺景観の向上も図りながら沿川のにぎわいや魅

力向上を図り、河川を通じた広域連携型まちづくりを提案しました。

## 〔WS2〕テーマ「エキサイティング・シティ・大阪をどう実現するか」

「Railway Park Osaka 鉄道敷の立体的空間利用によるみどりの核の形成」では、天王寺駅周辺を事例に、鉄道敷の重複利用による「みどりの核」の整備による交流空間と滞留空間の創出を提案、「中之島アイランドプロムナード」では、中之島での河川空間を利用した人と人、人とまちを繋ぐエキサイティングな仕掛けを提案、「水都大阪に夢の架け橋を」では、外から来た人をワクワクさせるまちの実現に向け、立体的空間活用による大阪市中央卸売市場での食の拠点づくりや大阪市西部エリアをつなぐ都市型ロープウェイ整備を提案、「Exciting Urban Infra!」では、持続可能な未来のビジョンを提示できる都市がエキサイティングであるとし、大阪市東部や北部にある浄水場や下水処理場の上部空間利用による植物工場やエンタメ施設等循環型施設整備を提案しました。

## 〔WS3〕テーマ「都市部の再生可能エネルギー源を探せ!循環型ゼロカーボンシティへの道」

これからの大阪を牽引する夢洲を最初のターゲットに、IR施設等から発生する厨芥ごみを収集しながら自らバイオガス化し自走する究極のカーボンニュートラル・マシン「ゼロリアン」を走らせることを提案、これによる効果や普及施策、社会的評価の得方、教育啓蒙活動の方法、法規制などについて提案しました。

各WS活動に対し幹事から高い評価をいただきました。

(分科会活動委員会:谷)



## 2022-2023年度ワークショップ副市長報告会

日時:2024年7月23日(火) 10:00~11:30  
会場:大阪市役所 5階大応接室

## 出席者

〈大阪市〉高橋副市長、山田計画調整局長、福元理事、山野企画振興部長、正垣開発調整部長、泉地域開発担当課長、山崎地域開発担当課長代理、河田開発計画課担当係長、鈴木担当課長代理(WS2オブザーバー)、倉森担当係長(WS3オブザーバー)

〈CITÉさろん〉田中会長、久保田副会長、谷分科会活動委員会委員長、深田分科会活動委員会副委員長

〈WS座長〉〔WS1〕吉田長裕大阪公立大学大学院准教授

〔WS2〕山口敬太京都大学地球環境学学准教授

〔WS3〕鍋島美奈子大阪公立大学大学院教授

〈発表者〉〔WS1〕林(ザイマックス関西)、菅野(竹中工務店)

〔WS2〕片山(NTT都市開発)、前川(南海電気鉄道)、

中尾(西日本旅客鉄道)、堀(日本設計)

〔WS3〕吉森(阪急阪神不動産)、杉垣(阪神電気鉄道)、

山田(日立造船)

## 〔概要〕

## 1.開会・挨拶

開会に際し、田中会長から、「WSの役割は、①検討を通じた知見を習得し、報告書作成プロセスを体得できること、②会社の枠を超え、考え方をぶつけあうことで、見識や視野がひろがる、人脈ができること、③提案に止まらず、実現に向けての次なるアクションを起こしてもらいたい。会員54社の若者のエネルギーを社会に活かすことが大事である。大阪市幹部の皆さんからアドバイスをいただき、提案の実現に向けて有意義な報告会になることを期待したい。」との挨拶がありました。

続いて、高橋副市長から、16回に及ぶWSのテーマについて振り返って頂いた後、「企業や職種の枠を超えて議論した成果であり、非常に楽しみにしている。万博を控えた時期でもあり、今回の提案も聞くのを楽しみにしている。」のご挨拶をいただきました。

## 2.ワークショップ報告ならびに質疑

## 〔WS3〕都市部の再生可能エネルギー源を探せ!循環型ゼロカーボンCityへの道

発表後、鍋島座長から「夢のある提案に仕上げた。IRを対象地に、エネルギーや環境を開発コンセプトに入れ込むことで、大阪市が世界に発信できる提案になったと思う。」との説明がありました。

高橋副市長からは「大阪港でカーボンニュートラルポート形成事業(CNT)を進めており、IRから出る厨芥ゴミ、バイオガスを物流施設にエネルギーとして使ってもらおうシナリオはあり得る。港湾局に、もっ

と考えるように指示したい。」とのコメントを頂きました。

## 〔WS1〕価値変化に

## 伴う移動の本質を再考する

発表後、吉田座長から「交通に関わる根源的需要と派生的需要という2つの観点から発表頂いた。交通を価値あるものにするためには、何をすれば良いのかという観点で、交通を知らない方を含めて議論頂いたことで、色々なアイデアが出てきた。」との説明がありました。

高橋副市長からは「万博に向けた移動の手段としてMaasは不可欠。AIによるルート提案機能が面白いと感じた。大阪メトロにも勉強するよう指示したい。歩行者と自動運転の共存については、御堂筋で実証実験を進めているところでもあり、提案内容を展開できたら良いと思う。」とのコメントを頂きました。

## 〔WS2〕エキサイティング・シティ・オオサカをどう実現するか

発表後、山口座長から「大阪の街の魅力を活かしながら、そこにしかない面白さを実現することが経済戦略上も重要。可能性を調べる中で、インフラの空中の広い空間を活用しようという話が出てきた。一つでも今後につながればと思う。」との説明がありました。

高橋副市長からは「天王寺についてはJR西さん、中之島の台船については山田局長が国交省と調整してくれると。中浜や柴島の処理場については、担当の水道と下水道につなげたい。」とのコメントをいただきました。

## 3.講評ならびに意見交換

全体を通じて、山田計画調整局長から「市が取り組む事業を捉え、現場に近いところに目を向けて提案をまとめて頂いた。」とのコメントと、WS2に関して、ICT活用の具体的なイメージを教えてくださいとの質問をいただきました。

高橋副市長からは「市の若い職員についても、民間の方と自由闊達に議論できる場で腕を磨けるように、育成したい。」とのコメントを頂きました。

## 4.閉会

久保田副会長から「WSはCITÉさろんでも中心の活動で、民間企業の知見を活用する、若手の方々のポテンシャルを顕在化する非常に良い活動だと思う。市職員の方との交流の場としても非常に貴重な場になっていることを再認識した。今後も精力的に活動を続けたい。」との挨拶で閉会しました。

(分科会活動委員会:深田)



### 圏域研究会

#### ◆農業・農村とつながる圏域郊外調査[泉北レモンの街]

日時:2024年3月7日(木) 15:00~17:30  
講師:泉北レモンの街 苅谷由佳様  
南海電気鉄道(株) まち共創本部 泉北事業部 課長 今中氏

泉北ニュータウンでは「(一社)泉北レモンの街」が、果樹園運営と市民植樹活動を展開されています。南海電鉄も支援し、農業を通じた地域活性化に取り組んでおり、将来、農地とニュータウンの連携が期待されます。

人口の都心回帰が進む中で、農業は郊外の新たな価値となり得ます。農村にとっても、郊外住民は農業の新たな担い手として期待できます。我々は、圏域研究の一環として、泉北ニュータウンでレモン農園を運営しつつ、住宅地で植樹運動を展開する(一社)泉北レモンの街の苅谷代表と、彼らを支援する南海電鉄の今中課長にお話を伺い、その後、社団が運営する果樹園を視察しました。

「泉北レモンの街」は2015年に設立。農業体験公園等での果樹園運営と苗木の市民植樹活動に取り組んでいます。得られたレモンの実は、ケーキ屋に卸したりイベントで販売しています。レモンを使っているのは、イメージが良く、気候に合い、育てるのが楽だから、とのこと。果樹園運営の許可が下りない、土地が見つからない、ノウハウを教えてください人がいない等、多くの苦労があったそうです。農業委員会は既存の農家の保護には熱心だが、新しく農業をやろうとする人には不親切だとか。それでも、大勢の参加者がいて、南海電鉄様や堺市も応援しています。今は修景、活性化が目的だが、いずれ事業として自立させたい、とのこと。

南海電鉄の今中課長は、泉北ニュータウンの活性化活動を展開しています。市民活動の募集に苅谷代表が応募してきて知り合い、様々なイベントでコラボされています。泉北はニュータウンと農地が折り重なった地形をしていて、両者の連携の可能性を感じておられるそうです。泉北レモンの街以外にも、泉北には農業系の活動が多いのだとか。たわわに実ったレモンの果樹と関係者の熱い想いを拝見し、泉北ニュータウンの将来に大きな可能性を感じる事ができました。

(研究活動委員会:水方)



苅谷様の講演



「泉北レモンの街」の視察

#### ◆歴史的層性のある郊外調査その2[近鉄編]

日時:2024年5月31日(金) 14:00~17:30  
講師:水野 優子 氏(武庫川女子大学 生活環境科学部 准教授)  
片瀬 哲也 氏(近鉄不動産(株)事業開発本部プロジェクト企画部 部長)  
会場:パナディ学園前北館、あやめ池  
行程:座学①:郊外文化と近鉄奈良線-奈良・学園前を中心に-水野先生  
視察:学研奈良登美ヶ丘住宅、あやめ池住宅  
座学②:あやめ池遊園地跡地開発PJ:片瀬部長  
総評:青木 嵩氏(大阪大学助教)

#### 前年度から継続中の圏域郊外調査のうち、「歴史的層性のある郊外住宅」として、近鉄不動産様のアテンドによる学園前、学研奈良登美ヶ丘、あやめ池の概査と座学を実施しました。

○1914年、近鉄奈良線「上本町~奈良間」開業以降、1930年代から大阪市・奈良市間に広がる西の京丘陵及び矢田丘陵地で近鉄不動産様による大規模住宅開発が始まる。遊園地・ホテル・温泉・歌劇場・美術館等の文化度の高いレクリエーション施設を有する大規模住宅、教育施設等の整備です。

○鉄道延伸、新駅・バス路線の開設、駅前開発等の利便性向上・沿線魅力化も並行しつつ、1950年代に学園前住宅、1960年代に登美ヶ丘住宅の入居が始まり、今回視察したあやめ池住宅は2010年、学研奈良登美ヶ丘住宅は2013年に完成。辰野金吾、村野藤吾、吉田五十八等がこの近鉄創業路線開発PJに関わったことから、当PJにかかる同社の強い意志が感じられます。

○生駒・大和西大寺間の丘陵地は、近鉄創業路線として近代期に郊外文化を醸成したエリア。この文化的環境を下地とし、戦後の住宅不足に対して大量の住宅供給に貢献した点を水野先生は高く評価されています。パターン化、均質化する個性乏しき現代の開発と比べ、阪神、近鉄両社の威信をかけた歴史的層性ある甲子園リゾート開発、近鉄奈良沿線住宅開発事業は、まさにわが圏域の誇りと言えます。なお、「学園前住宅」は1966年、優良団地・建設大臣表彰第1号です。

(研究活動委員会:上田)



水野先生の講演



### お世話になった役員メッセージ

CITÉさろんの「ある時」と「ない時」というのはこうも違うものかと、退任して数か月、寂しさをこらえて毎日を過ごしております。

広報委員会を中心に活動に参加させていただきましたが、コロナ禍においては、シンポジウムもオンラインでという年も経験し、リアル活動復活後は、あらためてCITÉさろんにおける交流の重要性、すばらしさを再認識しました。

本会の活動も年々活発になり、事務局のお二人には、大変ご苦労をおかけしました。献身的なお取組みに、あらためて感謝申し上げます。昨年度から、各委員会間の活動の重複解消や、事務局の負荷軽減に向けた取組みが進み始めましたが、皆さんで、一層前進させていただければと思います。

今後も、CITÉさろんでご縁のできた皆さんと、大阪のまちづくり、魅力向上に向けて、ご一緒できる機会が多々あろうかと思っております。楽しみにしております。



前副会長  
松本 利典 氏  
阪急阪神不動産  
株式会社  
常務取締役  
開発事業本部長

### 2024年度 新副会長&新委員長メッセージ

実は委員会活動の経験がないまま広報委員会委員長となりましたが、委員会のメンバーの方に支えて頂きながら4年間大変お世話になり、ありがとうございました。

当初コロナ禍と重なり行事がオンライン開催となる中、どのようにみなさまに参加いただくか、ご登壇者のロジや進行など常に綱渡りでヒヤ汗を流すところからスタートしましたが、在任中は他の委員会との連携共催事業やHPの改定・資料室の創設など、皆さんが参加頂き易く、情報発信・共有など易い仕組みづくりなど試行錯誤してまいりました。

これからは広報委員会担当の副会長として、みなさまにより一層参加頂き、活動が活性化する事業運営を意識しながら、CITÉさろんの情報発信やプレゼンス向上に努めてまいりたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



新副会長  
高宮 紀子 氏  
関西電力  
power with heart  
関西電力株式会社  
ソリューション本部  
地域開発専任部長

2018年の幹事就任以来、広報委員会に所属させていただいております。「まちづくり」をテーマに、官民さまざまな方々と交流し、発展にむけての活動に参加できることを光栄に思っております。

皆さまの熱意で、幅広く展開をされている活動が、広報委員会の活動を通じて更に密度を高め、深度のあるものに進化できるように少しでも貢献できればと考えております。

私自身はお役にたてることは限られていますが、広報委員の皆さまのお力添えをいただきながら頑張りたいと存じます。よろしくお願いいたします。



新広報委員長  
松田 智恵 氏  
xymax  
株式会社  
ザイマックス関西  
営業企画部長

### 9月以降の主なイベント・スケジュール

研究活動委員会	広報委員会&分科会活動委員会 合同	分科会活動委員会	総務委員会
<b>■第1回プロジェクト見学会</b> 日時:2024年9月5日(木) 14:00~17:00 場所:神戸須磨シーワールド	<b>■第1回トークセッション 兼 第1回WS運動 次代のまちづくり研究会</b> 日時:2024年9月13日(金) 17:00~18:30 会場:コンファレンスプラザ大阪御堂筋 演題:郊外と都心の関係性を考える 講師:WS1座長 吉田 長裕氏 大阪公立大学大学院工学研究科 都市系専攻(都市基盤計画)准教授 ゲスト講師:松下 慶太氏 関西大学社会学部 教授/日本ワーケーション協会フェロー、日本デジタルノマド協会顧問、ワーケーション&デジタルノマドラボ Co-Founder	<b>■第2回WS運動 次代のまちづくり研究会</b> 日時:2024年11月26日(火) 16:00~17:30 講師:WS2座長 山口 敬太氏	<b>■定例幹事会</b> ○10月定例幹事会 日時:2024年10月24日(木) 会場:梅田スカイビル スカイルーム1 ○12月定例幹事会 日時:2024年12月16日(月) 会場:(株)竹中工務店 1階いちようホール ○2月定例幹事会 日時:2025年2月28日(金)
<b>■第2回プロジェクト見学会</b> 日時:2024年11月頃予定 場所:グラングリーン大阪		<b>■第3回WS運動 次代のまちづくり研究会</b> 日時:2025年1月予定 講師:WS3座長 鍋島 美奈子氏	<b>■幹事研修会</b> 日時:2024年11月29日(金)~30日(土) 会場:長崎県 長崎スタジアムシティ 長崎駅周辺プロジェクト
<b>■自主活動プログラム&amp;準圏域特別調査</b> 日時:2024年10月3日(木)~4日(金) 場所:福井県敦賀、大阪原発、フクイタテアミ		<b>■ソトから見た大阪研究会 報告会</b> 日時:2025年2月14日(金) 会場:Muic 淀屋橋	<b>■親睦ゴルフコンペ</b> 日時:2024年12月21日(土) 会場:キングスロードゴルフクラブ

# Member's List

会員リスト

計54社 (50音順)

## Event Calender 2024年度CITÉざろん イベント-カレンダー

◆2024年度の事業日程					
4/4	木	13:00	◆会計監査	総務	CITÉざろん事務局
4/10	水	16:00	◆常任幹事会	総務	CITÉざろん事務局
4/17	水	14:15	◆4月定例幹事会	総務	(株)大林組 4階講堂
		15:45	◆2022-2023年 WS幹事会報告会	分科会	
5/29	水	15:30	◆第33回 定例総会	総務	梅田サウスホール(大ホール)
		16:30	◆テーマフォーラム	研究活動	
5/31	金	14:00	◆園域研究会 第3回視察会(近鉄編)	研究活動	近鉄奈良線「学園前駅」、「学研奈良登美ヶ丘駅」、「あやめ池駅」、周辺
7/23	火	9:30	◆2022-2023年 WS副市長報告会	分科会	大阪市役所 5階大応接室
7/24	水	11:00	◆常任幹事会	総務	CITÉざろん事務局
7/30	火	15:00	◆7月定例幹事会	総務	(株)竹中工務店 1階いちようホール
		16:00	◆小規模でやわらかい土地区画整理セミナー	コラボ事業	
8/20	火	17:00	◆会長-副会長会	総務	CITÉざろん事務局
9/5	木	14:00	◆第1回プロジェクト見学会	研究活動	神戸須磨シーワールド
9/10	火		◆2024-2025 WS2(第1回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
9/13	金	17:00	◆第1回トークセッション 兼 第1回WS運動次代のまちづくり研究会	分科会-広報	コンファレンスプラザ大阪御堂筋
9/27	金		◆2024-2025 WS1(第1回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
9/30	月		◆2024-2025 WS3(第1回)	分科会	大阪市開発公社 区分所有者会会議室
◆予定					
10/3~4	木		◆自主活動プログラム&準園域特別調査	研究活動	福井県敦賀、大飯原発、フクイタテアミ
10/24	木		◆10月定例幹事会	総務	梅田スカイビル スカイルーム1
11月頃	予定		◆第2回プロジェクト見学会	研究活動	グラングリーン大阪
11/26	火	16:00	◆第2回WS運動 次代のまちづくり研究会	分科会	
11/29~30	金土		◆幹事研修会	総務	長崎県 長崎スタジアムシティ 長崎駅周辺プロジェクト
12/16	月		◆12月定例幹事会	総務	(株)竹中工務店 1階いちようホール
12/21	土		◆親睦ゴルフコンペ	総務	キングスロードゴルフクラブ
2025年					
1月	予定		◆第3回WS運動 次代のまちづくり研究会	分科会	
2/14	金		◆ソトから見た大阪研究会 報告会	分科会	Muic 淀屋橋
2/28	金		◆2月定例幹事会	総務	

## 編集後記

今夏も昨年同様の酷暑となりました。3年振りのパリオリンピックでしたがパリは酷暑という感はなく、日本の夏が異様に暑く、甲子園も朝夕の2部制試行など35℃超えの警報が出る状況下の開催でした。また、スコールかと思う豪雨が各都市を襲い、下水道容量を超える内水災害が頻繁に発生する状況です。日本の都市をとりまく環境は夏が特に酷く感じるようになりました。昭和の昔は真夏でも32℃位が最高気温で、大半の家庭にエアコンはなく扇風機でも過ごせました。今夏はエアコンフル稼働でないと熱中症となってしまいます。グラングリーン大阪のように都心緑化やエリアでの効率的なエネルギー利活用等が必須となり、都市インフラ容量等の見直しも必要な時期に来ているのかとも感じます。

(事務局)

## シテ・レトル

2024年 9月号 Vol.90

発行/CITÉざろん事務局  
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2-2-5  
船場センタービル5号館2階  
一般財団法人 都市技術センター 内  
企画/CITÉざろん広報委員会委員  
編集/株式会社高速オフセット